

言心先生の中国便り

現代の義和団

最近、アメリカの最新鋭防衛ミサイルシステム・THAADが韓国に配置された。もともと韓国がこの装備を配置した理由は北朝鮮から韓国を防衛するため、やむを得ない選択である。この決断に対して、東アジアのもう一つの大国、中国が激しく反発した。

本来韓国は中国の北朝鮮への説得を信じて、北朝鮮の核実験が廃止されることに大きな希望を持った。しかし、この希望が見事に外れ、韓国はTHAADの配置を選んだ。中国が反対する理由は、THAADのレーダーにより中国の大部分の地方の軍事活動が探査され、中国の国家主権を大きく侵害することだ。

中韓両国はこの問題で対立し、中国政府は中国人の

韓国への観光旅行を禁止した。

最初、韓国の住民の反対のためTHAADの配置場所はなかなか決められず、韓国の大手企業ロッテグループが所有するゴルフ場を提供した。これをきっかけに、中国政府が官用媒体を操作し、反韓と在中ロッテマーケット商品の不買運動を提唱した。直ぐに、暴民は中国東北地方のロッテマーケットに乱入し、商品を損壊し、入店する客を阻止した。

中国の「WeChat」で賛成と反対の意見が激しく論争した。賛成派は反韓、反ロッテの行動は市民の愛国主義の行為で提唱すべきである。反対派はTHAADの配置は米韓の計画した行為で、この両政府を制裁せず、ロッテという企業に反対することは本末転倒であると反論した。

今回の反韓、反ロッテ行為は百年前の義和団を思い出

した。その時、権力者の西太后がうまく不満を持つていた愛国集団義和団を利用し、少数の外国人と多数の中国人を虐殺した。

今の中国は言論の自由と平和的なデモは制限されている。今回の反韓デモは明白的な政府のコントロールの手

法である。日常生活の中に抑圧されている青年達は、一旦解放されると当然爆発するということである。

有名な北京大学の女流教授は、百年後の今中国はあまり進歩せず、上はまだ西太后、下はまだ義和団だと指摘した。

